

新しい年 2023 年を迎えて

昨日は 2022 年を振り返ったが、今日は 2023 年、新しい年について述べてみたい。写真は 2023 年の初日の出である。今年は天気もよく、生駒山もはっきり見える。この空のように穏やかに過ごしたいが、戦争という恐怖が現実味を帯びつつある。



平和新聞「2023 新春対談」の内藤功さん(日本平和委員会代表理事 弁護士)発言から。ウクライナ危機に便乗し、この機会に日本の軍備を拡大しようとする勢力が戦争をあおるかのような動きを強めています。軍事費を大幅に増額し、米軍基地を強化し、憲法 9 条を変えて日本を戦争できる国にしていこうという策動です。今度のいわゆる「安保 3 文書」改定の核心部分というのは「敵基地攻撃能力」の保有になりますが、それにとמונא戰略と装備の急激な変化、軍事費の暴騰、それが国民生活を破壊するという問題が大きな焦点だと思いますね。

猿田佐世さん(シンクタンク「新外交イニシアティブ(ND)」代表 弁護士(日本・米ニューヨーク州))発言から。日本でもウクライナ戦争が始まってから、世論調査の結果で防衛力強化に賛成という回答の割合が増えました。しかし、この戦争で明らかになったのは、軍事力が強ければ平和になるということは神話だったということです。ロシアと北大西洋条約機構(NATO)全体を合わせた力では、圧倒的に NATO の方が強い。しかし、米国はこの戦争に直接的に介入できていません。結局、無謀な行為もいとわれないロシアに対し、米国の抑止力が効いていないことを示しています。「軍事力を拡大すれば平和になる」という神話を変えていかないと、日本でも戦争の可能性が高まってしまいます。

新年早々から戦争の話題になったが、昨日もレポートしたように、それだけ危機感を感じている。宮本憲一先生が京都の研究会で「世論」の動向が鍵だという言葉、それとミュージシャンで作曲家の坂本龍一さんのネットでの投稿を思い起こす。「戦争は外交の失敗と定義されている。攻めてきたらどうするんだという人がいるが攻められないようにするのが日々の外交の力。それを怠っておいて軍備増強するのは本末転倒ですね」

さて、私は今年で「後期高齢者」となる。ゼミ生や卒業生らに「還暦」を祝ってもらって感激し、65 歳で大学教員を卒業し、「古希」を迎えて体をこき使わないようにしてきた。そして「後期高齢者」に仲間入りにして、健康保険証も変わってしまう。

大阪に転居して 5 年あまり。精神面では元気になってきた。先日の背広ゼミ「宮本・加茂対談」後の懇親会でも述べたが、若い時より積極的になり、よく発言し、行動的になってきた。「維新政治」があまりにも酷いので、黙っておれないのだ。夢洲 IR カジノ住民訴訟「原告」としての活動をはじめ、戦争を阻止するために奮闘努力していきたい。

(2023 年 1 月 1 日)